



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 234
September
2012

トピックス

人材育成

平成24年度JICA研修
「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政
コース」の実施

ADRC客員研究員 レポート

¶ セキモフ・アディ
レット (キルギス)

¶ モニール・アブドゥ
ラ・モハメド・アルマ
スニ (イエメン)

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2012

●人材育成

平成24年度JICA研修「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政コース」 の実施

アジア防災センター (ADRC) は、2012年6月25日から8月4日にかけて、中央アジア・コーカサス地域の防災担当行政官を対象とした研修を国際協力機構関西国際センター (JICA関西) の協力のもと実施致しました。

中央アジア・コーカサス地域では、洪水、干ばつ、地滑り、地震といった災害が多く発生し、複数の国に被害が及ぶことも稀ではありません。また、冬季は積雪も多く、雪解け時期に山岳氷河が洪水を発生させる等の課題を抱えています。本研修は、今年度で9回目の実施となり、防災行政に関する基礎的な事項について、日本の防災の知識や経験、蓄積してきた技術を提供するとともに、研修員がそれぞれの国において兵庫行動枠組

(HFA) の5つの優先行動に基づいた自国の現状と課題を分析し、より良い防災体制を構築するための改善案を策定することを目的としています。

今年度は、中央アジア地域のカザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、及びコーカサス地域のアルメニアの計5カ国から、中央または地方政府の防災担当行政官計8名が参加し、ロシア語による研修が行われました。

研修員は、中央政府・地方自治体・防災拠点・ライフライン・研究機関・予報機関・メディア・医療・国連機関・民間企業などから広範囲にわたる講義を受け、防災について幅広く学びました。また、住民参加型ハザードマップ作成のための「タウンウォッチング」手法を演習したり、四国で大規模砂防ダムなどを見学したりしました。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災における対応や教訓、復興について学ぶため仙台市、名取市、南三陸町などを訪問しました。

帰国後、彼らが研修で学んだ知識、技術、手法を様々なプロジェクトに実践し、自国のより良い防災体制を構築していくことが期待されます。当研修実施にあたり、訪問等を受入れいただきました各関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



東日本大震災被災地視察



住民参加型ハザードマップの作成

●ADRC客員研究員レポート

セキモフ・アディレット（キルギス）

はじめまして。私はキルギス共和国から来ました、セキモフ・アディレットと申します。キルギスでは、非常事態省というところで自然災害のモニタリング業務に従事しています。現在は国際協力局という部署に所属しています。国際協力局は非常事態省の中央オフィスの中にあり、災害緊急時や予防分野などでの国際協力関連事業を実施しています。また、海外機関などからの投資や技術移転の誘致も担当しています。

この部署での大きな目的のひとつは、上述したキルギスと海外機関との国際協力の確立と協力体制の継続です。私はこの分野の専門家として、多くの案件について担当していて、今は世界銀行やUNHCR、UNWFPなどの機関と連携し業務を行っています。

それでは、次に私の国キルギスについて少し紹介させていただきます。地理的にみると、キルギスは中央アジアのおよそ中心に位置していて、面積は198,500平方キロメートルです。人口は5,500,000人で、国土の90%以上が1,500m以上のいわゆる山岳国です。最も高いポベダ山の山頂は7,439mもあります。これら山岳地域においては、様々な気候変動が多く、緊急事態を引き起こしています。また、キルギスでは地震、泥流、洪水、地滑り、雪崩や浸水など、様々な自然災害が毎年発生していて、多くの人命や貴重な財産が奪われています。

ADRCの客員研究員プログラムは、私の防災分野の知識を充実させるとても素晴らしい機会だと思います。私はこのプログラムの期間中、災害予防や準備、緊急対応などそれぞれのフェーズにおける災害対策について学び、コミュニティレベルにおける早期警報システムなどについても知識を得たいと思います。また、もし機会を頂ければ、東日本大震災の被災地も訪問できればと思います。ADRCで得られる経験は、きっと将来の私の業務に生かされると期待します。



モニール・アブドゥラ・モハメド・アルマスニ（イエメン）

はじめまして。私はイエメンから来ましたモニール・アブドゥラ・モハメド・アルマスニと申します。私は、1998年からイエメンにある国立地震火山観測センター（SVOC）で勤めています。そして、2006年以降は主に地震リスク軽減の分野で業務を行っています。

イエメンはアラビア半島の先端に位置するアデン湾に面した国で、地震を引き起こす活発なプレート境界付近に位置しています。国土面積は528,000平方キロメートルで、人口は22,000,000人です。地形的にみると、イエメンには多くの起伏ある山脈や、高地、砂漠、そして海岸沿いの平地などがあります。また、自然災害の視点で見ると、地滑りや地震、洪水などに影響を受けやすい環境にあります。残念ですが、イエメンにおいては災害軽減のための効果的対応である防災対策は未だあまり整備されていません。特に、災害後の復興復旧に焦点をあてた計画の策定は不十分です。さらに、公的な早期警報システムなども配備されず、早急な防災対策が必要となっています。

さて、私が客員研究員として在籍するADRCでの主な研究は、イエメンの首都であるサナ市を対象地域としています。内容は、過去の地震データやシナリオを用いて、今後発生する地震被害



続き

の損害算出に関するものです。この研究を進めることにより、サナ市におけるコミュニティのための防災計画のためのガイドライン策定において、成果が効果的に活用できると思います。最後に、今回客員研究員として日本滞在の機会を頂いた日本政府およびADRC、さらにメンバー国の皆さまのご尽力に対しまして、感謝を申し上げます。また、私の派遣について承認をいただいたイエメン政府におきましてもお礼を申し上げたいと思います。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。